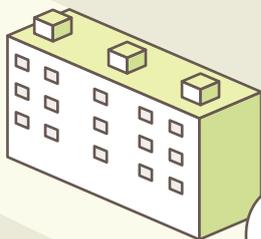
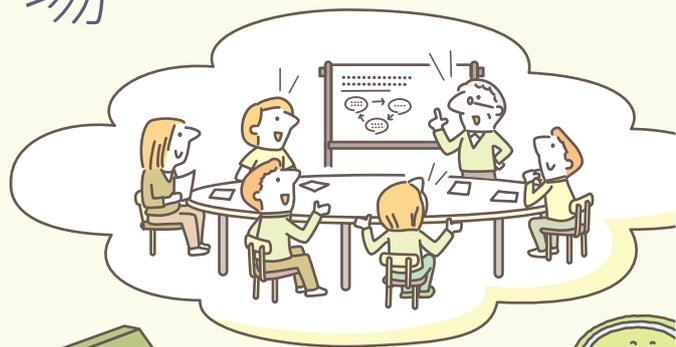


まちの身近な集える場

事例集

Vol.2

出会いが新たな魅力を生み出す
コラボのすすめ



コラボのす・す・め

誰かと（何かと）コラボレーションすることで
素敵な活動を始めることができた。

既存の活動が、一味も二味も素敵になった。
そんな事例を集めました。

この冊子が、これから何かを始めてみようと思う活動者や
すでに活動している方のさらなる発展のヒントになればと願っています。

『まちの身近な集える場 事例集 Vol.1』とも併せてご活用ください。



もくじ

- 事例 1** 地域組織×地元企業
楽しい手芸教室 ...P.3-4
 - 事例 2** ふれあい喫茶×社会福祉法人
東陶器わくわくフィットネス ...P.5-6
 - 事例 3** 自治会×八百屋
向ヶ丘第二団地 野菜の移動販売 ...P.7-8
 - 事例 4** 校区福祉委員会×民生委員会×校区デイサービス連絡会
大浜いきいきサロン ...P.9-10
 - 事例 5** 地方住宅供給公社×地域住民×NPO法人×自治会
茶山台としょかん ...P.11-12
 - 事例 6** 地域住民×住宅管理会社×協同組合
りんりんカフェ ...P.13-14
 - 事例 7** 子どもの居場所×SS倶楽部×民間企業など
マリリンの家 ...P.15-16
 - 事例 8** 福祉委員会（福祉推進委員×民生委員児童委員）×自治会
南余部ふれあい喫茶 ...P.17-18
-
- コラボ
スペシャル** 子ども食堂 ...P.19-20
Pick up!
—キッチン錦綾

- さあ、やってみよう!
- ◎集いの場に関する
情報収集・相談先 ...P.21
- ◎集いの場づくり/
企画シートP.22



地域福祉活動をする上での悩みごとは、さまざま。
例えば、こんな声がきこえてきます。

(地域福祉活動における悩みごと)

コト

プログラムを
作るのが
大変…

ヒト

担い手が
いない…

モノ

個々の持ち出し
では無理…

マンネリ化になり、
参加者が減ってきた…

場所

活動場所が
ない…

カネ

収支が赤字に
なってしまう…

必要なものを
購入できない…
収入が少ない…



「地域のために」という思いで活動を続けてきたものの、マンネリ化してしまったとき、また活動を始めたいが〇〇が足りない、となったとき、行き詰まりをどのように解決すればよいのでしょうか。

その手段のひとつとして『コラボレーション』を提案します。ひとりではなかなか難しいと思うことでも協力者や他の団体と話し合い、一緒に取り組むことで新たな可能性が広がっていくかもしれません。

次ページからは、企業や事業所等とコラボレーションしてさらに活動が活性化した事例や活動を始めることができた事例を紹介していきます。

しよっ!

コラボのコツを
事例を通して
みてみよう!



事例

企業からの余剰の毛糸で 地域の集いの場づくり



楽しい手芸教室

地域組織 × 地元企業

基礎データ

活動頻度	月1回(第2木曜日)
参加者 〔参加平均人数〕	地域住民、更生保護女性会 〔20人~30人〕
担い手属性 〔担い手人数〕	登美丘西校区 更生保護女性会 〔10人〕
立ち上げ費用	なし



活動紹介 \ ここがおもしろポイント /

1 地元企業(敷物工場)の協力により、住民の集いの場が誕生!

毎月1回、地域で活動をしている更生保護女性会の定例会が行われていましたが、活動もマンネリ化の傾向…新しい活動を検討していたところ、地元敷物工場より廃棄となる「毛糸」の無償提供の話が!

工場でも余剰毛糸を廃棄するためには手間も費用も別にかかるため、無料で引き取ってもらえることは大きなメリット。お互いにWin-Winの取り組みとなりました。

やがて更生保護女性会の会員だけでなく、広く地域住民も無料で参加できる『楽しい手芸教室』となり、多くの住民が月に1度集い、手芸を学び、楽しく交流できる集いの場となりました。更生保護女性会の活性化はもちろん、参加している住民も学んだ作品づくりを日々の趣味や楽しみとして、健康維持に大きな意義となっています。



2 日常の集いの場に「毎回」「ちょっとだけ」運動を取り入れる工夫

『楽しい手芸教室』では毎回、最初に15分程運動をしています(「堺コッカラ体操」)。指導は堺市の講習を受けたボランティアが担っています。ボランティアも学んだことが活かせる喜びがあり、集いの場に毎回運動の要素を取り入れることに成功しています。

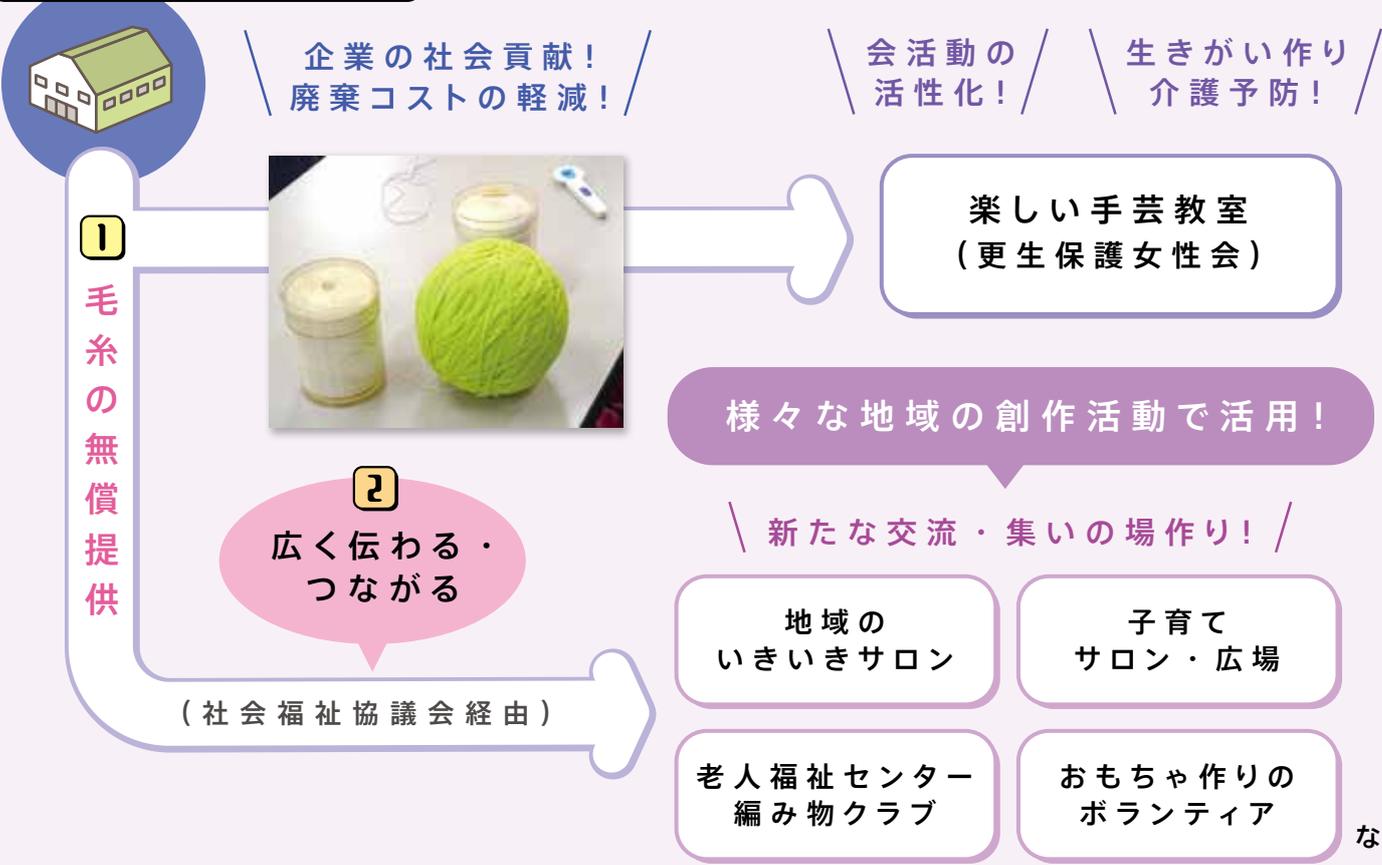
3 つながりがつながりを呼び、毛糸が様々な場面での創作活動、ふれあいの取り組みに活用!

企業の社会貢献として提供された「毛糸」を社会福祉協議会を通じて各地域へ情報提供。サンプルの作品を区役所に展示して啓発を行ったところ、多数の反応が。地域のいきいきサロンや老人会、住民による手芸サークル、老人福祉センター編み物クラブ、手作りおもちゃのボランティアグループ、子育てサロンや広場の活動など、様々な場面で「毛糸」を使ったふれあい活動へと広がっています。

「楽しい手芸教室」のあゆみ



地元企業（敷物工場）



参考 | □活動場所：登美丘西校区及び東区内の各所
□活動主体：登美丘西校区更生保護女性会 ほか

事例

社会福祉法人が取り組む
「短期集中通所サービス」卒業生の受け皿づくりのため、
喫茶にフィットネス（介護予防）の取り組みをプラスワン!



東陶器わくわくフィットネス

ふれあい喫茶 × 社会福祉法人

基礎データ

活動頻度	第1・3日曜日 9:30~10:30
参加者 〔参加平均人数〕	地域住民 〔20人~30人程度〕
担い手属性 〔担い手人数〕	校区福祉協議会（地域住民） 〔3人〕
立ち上げ費用	0円



活動紹介 \ ここがおもしろポイント /

1 喫茶 × わくわくフィットネス（介護予防体操教室）の「工夫」「利点」「効果」

【取り組みの工夫】

- ▶ 喫茶にわくわくフィットネスを併設することで、担い手の負担を解消しつつ、わくわくフィットネスの活動を実現!

【利用者にとっての利点】

- ▶ 喫茶の利用者も体操ができるようになっており、一方でわくわくフィットネスの利用者は喫茶を楽しむことができるようになっています!

【相乗効果】

- ▶ 喫茶とわくわくフィットネス、双方の活動への参加者が増えています!



2 馴染みの場所で開催する良さ!

今まで外出機会の少なかった認知症の方が「ここなら来たい」と参加してくれたり、ご夫婦で参加されたり、馴染みの場所に『介護予防ができる場』が出来たことで、社会参加に繋がっているところが魅力のひとつ。新たな『つながり』が生まれています。



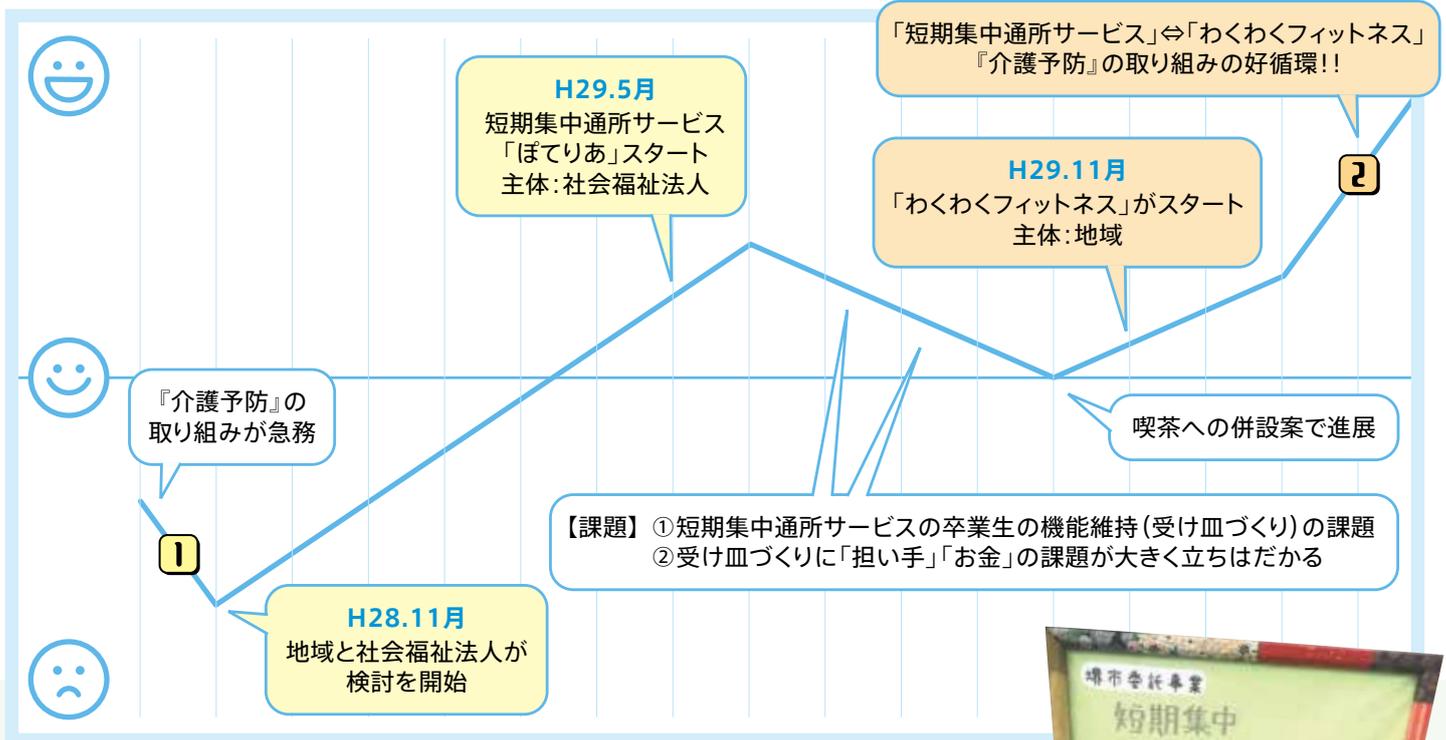
▼東陶器校区
地域会館

3 地域だからこそ出来ること!

介護保険を利用できない方でも、自身の介護予防のために気軽に体操できる環境を整備。健康寿命を伸ばすためには効果的であり、要介護状態になってから利用する公的制度では出来ないことを地域で実現。



「東陶器わくわくフィットネス」のあゆみ



1 コラボのきっかけ

1 地域と社会福祉法人の思いがつながり協働へ

東陶器校区には高齢者層(65歳以上)が約3,500人暮らしており、高齢化率は堺市平均より低いものの、支援が必要となる「要介護等認定率」は堺市平均よりも高い現状がありました(H30年4月現在)。そんな中、校区内のシニアがいつまでもいきいきとした生活が維持できるように『介護予防』に関する取り組みの充実を図りたいという地域の思いと、地域のために何か貢献したいという社会福祉法人の思いがつながり、地域と社会福祉法人が健康増進の場を創出するために協働したのがきっかけです。その結果、社会福祉法人は地域会館で「短期集中通所サービス ぼてりあ」を実施し、その卒業生の受け皿として地域が取り組んだものが『わくわくフィットネス』です。

2 コラボしての変化

2 介護予防の好循環!

短期集中通所サービスでは、機能低下が見受けられる利用者が一定期間専門的な訓練を受けて機能回復と運動習慣を身につけることが出来るようになってきました。その後、短期集中通所サービスの卒業生が、再び機能低下しないようにわくわくフィットネス等の地域活動へ参加することで機能の維持が図れるようになっており、『介護予防』の好循環を生み出しています。

3 コラボ相手の声

3 住みやすい地域になるように

〔社会福祉法人 五常会 高齢者総合福祉施設ゆーとりあ〕▶「東陶器校区内に施設があり、地域とは法人開設以来、長きに渡って様々な場面でご支援を頂いております。施設職員は、ごく普通に、地域住民の一員として地域活動に関わらせて頂いています。このように、地域と施設が双方に協働することで、結果的に地域住民の皆さんにとって住みやすい地域になっていけば良いと思います」

- 参考
- 活動場所：東陶器校区地域会館
 - 活動協力：社会福祉法人 五常会 高齢者総合福祉施設ゆーとりあ
 - 活動主体：東陶器校区福祉協議会

事例



自治会と八百屋さんが紡ぐ 地域コミュニケーション



向ヶ丘第二団地 野菜の移動販売

自治会 × 八百屋

基礎データ

活動頻度	毎週水曜日 10:00~12:00
参加者 〔参加平均人数〕	地域住民 〔約30人〕
担い手属性 〔担い手人数〕	自治会、八百屋（辻青果） 〔3人〕
立ち上げ費用	0円



活動紹介 \ ここがおもしろポイント /

1 ここに来れば誰かに会える！ アットホームな八百屋さん

野菜を買えるだけでなく、八百屋さんならではの旬の野菜や調理法を教えてもらえたり、お客さん同士で世間話や手芸品の交換をしたり、気さくな雰囲気が魅力です。



2 新鮮な野菜！豊富な品ぞろえ！

辻青果さんが当日の朝に市場で仕入れた新鮮な旬の野菜が並んでいます。



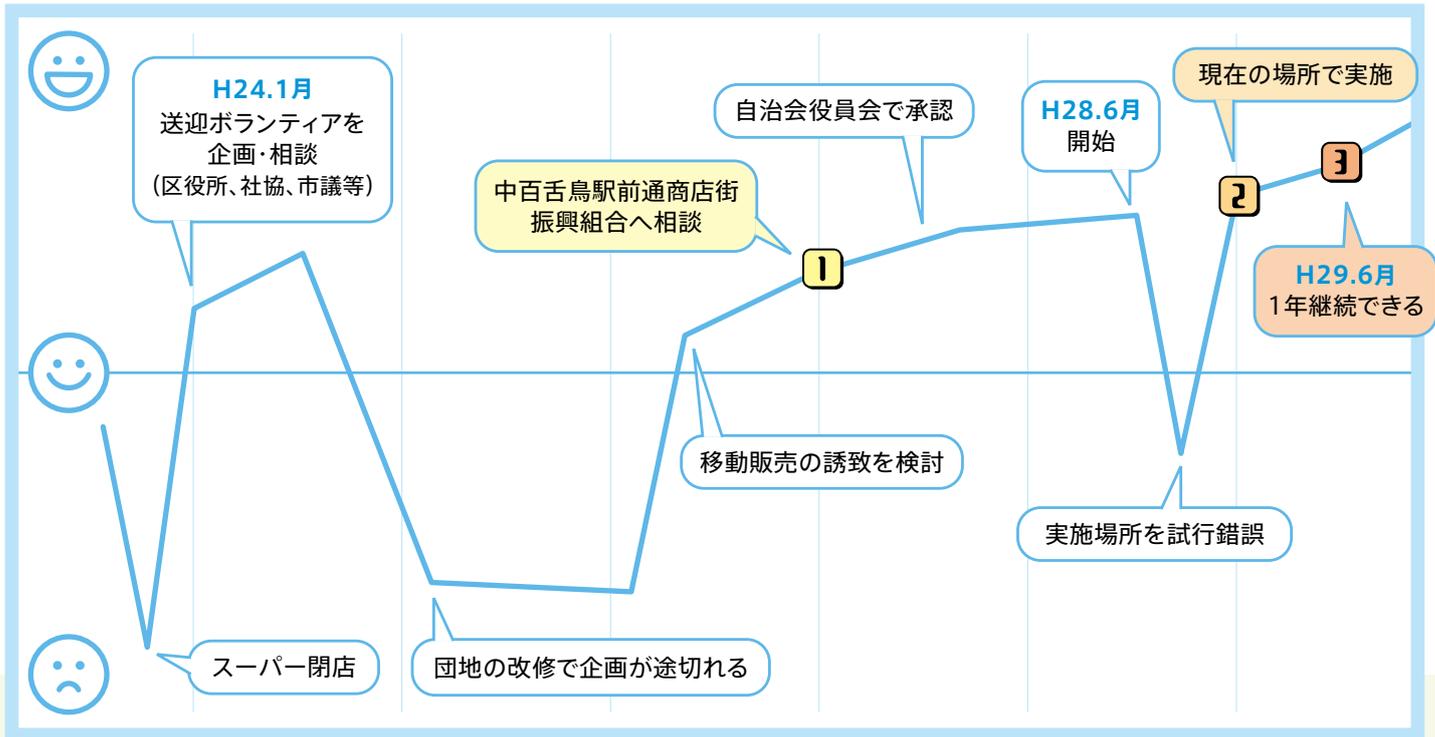
3 高齢者も大助かり！ 宅配も実施

「自分の目で見て買いたい。でも荷物が…」。
ここでは必要な人に無料で宅配をしてもらえるので高齢者など足腰の弱い人も荷物を気にせず安心して買い物ができます。



▲左から婦人部長、自治会長、辻さん（辻青果）

「向ヶ丘第二団地 野菜の移動販売」のあゆみ



ま
ち
の
身
近
な
集
え
る
場
事
例
集

「コロポのきっかけ」

1 高齢者の多い住宅団地でスーパーが閉店

地域住民の交流の場であった近所のスーパーが閉店。団地の住人のおよそ80%の世帯が高齢者の夫婦や1人暮らしの高齢者となり、買い物に困るとの声をよく聞くようになりました。どうかしなくてはと自治会で地域住民が身近に集えて買い物ができる場を模索しました。ただスーパー等小売店の誘致は容易ではありませんでした。

そこで当時移動販売の実績のあった中百舌鳥駅前通商店街振興組合へ相談をしたところ、野菜の販売をご提案いただき、辻青果さんを紹介していただきました。自治会としては場所を用意するだけで、費用や人の負担が少なく実施することになりました。



▲向ヶ丘第二団地

「コロポしての変化」

2 住民同士がつながる場になっています

念願の住民が集えて買い物ができる場を始めることができました。開催していくうちに地域住民にも浸透していき、天候に左右されるものの徐々にお客さんが増えてきました。それまで何週間、何カ月と顔を合わさないこともあった住民同士が顔を合わせる場になっています。久しぶりに出会ったと話に花が咲き、買い物の帰りも一緒に帰る等とてもいい雰囲気です。

「コロポ相手の声」

3 継続のため、自治会と試行錯誤します

〔辻青果〕▶「自治会をはじめ周辺にお住まいの方に喜んでいただき、可能な限り続けていきたいと思っています。そのためにも、もう少し売れてほしいという気持ちは正直あります。採算面ではなんとか赤字は出ていませんが、野菜の市場も品不足や価格高騰など難しい面があります。今後は宣伝方法を自治会と検討していきたいと考えています」

参考 □活動場所：向ヶ丘第二団地集会所前
□活動主体：向ヶ丘第二団地自治会

□活動協力：辻青果

事例 1

事例 2

事例 3

事例 4

事例 5

事例 6

事例 7

事例 8

コロポ
スペシャル

事例 4

校区デイサービスネットワーク による地域介護予防



大浜いきいきサロン **校区福祉委員会** × **民生委員会** × **校区デイサービス連絡会**

基礎データ

活動頻度	月1回
参加者 〔参加平均人数〕	大浜中町3丁・大浜南町3丁を中心とした校区在住の高齢者〔約20人〕
担い手属性 〔担い手人数〕	校区福祉委員会、民生委員会、デイサービス事業所
立ち上げ費用	特になし



活動紹介 \ ここがおもしろポイント /

1 校区にあるデイサービス事業所が交代で協力

校区にある7カ所のデイサービス事業所が、運動指導・脳トレを担当。その協力調整は、日常からパイプのある地域包括支援センターが担い、1事業所ではなく校区内ほぼ全ての事業所が関わることで地域が連携しやすい工夫をしています。

また、現在はこのサロンをきっかけにデイサービス連絡会が結成され、事業所同士の意見交換の場もできました。



2 新鮮野菜の直売も行っています

「都市部にあってもスーパーが遠く、買い物が意外に不便」という状況から、元校区住民の農家さんをお願いして野菜を仕入れて販売しており、旬の野菜が購入できます。

サロン参加者が購入するのは勿論、野菜を買いに来たついでにサロンに参加するなど、相乗効果を生んでいます！



3 地域包括支援センターがキャッチした地域課題に地域のみんなが呼応

当該エリアの住民は、集いの場を求めているだろう、という地域包括支援センターの気づきから、UR住まいセンター、デイサービス事業所、校区福祉委員会、民生委員会が協働して集いの場を作った事例です。

ひとつの提案に地域の関係者が続々と集い、協働して運営するサロンを開設するという協力体制がおもしろい！

「大浜いきいきサロン」のあゆみ



1 コラボのきっかけ

大浜いきいきサロンのきっかけ

住民の高齢化対策に力を入れていたUR住まいセンターと地域包括支援センターがH29年8月に全戸訪問による住民生活実態調査を行い、3軒に1軒がお一人暮らし高齢者であり、近くて気軽に出かけることのできる場所を求めていることが明らかになりました。そこで地域ケア会議を開催し、校区福祉委員会、民生委員会、デイサービス事業所、行政機関、そして社協で意見交換した結果、まずは包括主催でサロンをプレ開催することが決まりました。

2 コラボしての変化

どの団体が中心になって運営する?

プレ開催は約15名の参加者がありました。UR大浜南町住宅では自治会加入者も少ないこともあり、住民が集うことのできる場への期待は大きく、参加者からはサロンの継続開催への期待が膨らみました。予算面や地域での広報のしやすさを考えた結果、校区福祉委員会・民生委員会が主催者となり、デイサービス事業所ネットワークが脳トレ・体操などのサロンのプログラム面をサポートする形で開催することとなりました。

3 コラボ相手の声

地域の「やりたい」が噴出

開始から数カ月経った時点で振り返り会議を行ったところ、いくつかのデイサービス事業所から職員体制を理由に、「毎回脳トレと体操の2プログラムを交代で提供し続けていけるかが不安」という声が挙がりました。一方で校区福祉委員会・民生委員会では、「英彰いきいきサロン同様に手作り作品が作りたい」「もっと自分たちが主体となってやりたい」との声が挙がり、一度やってみたことで、次々にやりたいことが出てきました。その結果、デイサービス事業所の協力は1プログラム30分とし、残りの90分を校区福祉委員会・民生委員会が担当しています。

大浜いきいきサロン
～ 進行プログラム～

【当初】

脳トレ (デイ)	体操 (デイ)	お茶
-------------	------------	----

⇩

【現在】

レクリエーション (福祉委員会・民生委員会)	脳トレ/体操 (デイ)	お茶
---------------------------	----------------	----

- 参考
- 活動場所：UR 大浜南町住宅集会所
 - 活動主体：英彰校区福祉委員会／民生委員会

事例

5 住民がつどい、 お互いに“住まい方”を育む場所



茶山台としょかん **地方住宅供給公社** × **地域住民** × **NPO法人** × **自治会**

基礎データ

活動頻度	週3回程度(水・金・土曜日)
参加者 〔参加平均人数〕	子どもから大人 〔20人/回〕
担い手属性 〔担い手人数〕	NPO法人と近隣住民 〔1人+住民〕
立ち上げ費用	—



活動紹介 \ ここがおもしろポイント /

1 茶山台としょかん (通常開館日)

『住民それぞれの持ち味を多様に発揮できるコミュニティづくり』の場として、H27年12月、団地内の集会所にオープン。平日は、下校後の小学生が集う場となっています。また『としよ係(運営スタッフ)』は、地元住民が行っています。



2 0円マーケット (第3土曜日 9:00~12:00)

自宅に眠る、使わなくなった衣料品や日用品。「まだ綺麗だから誰かに使ってほしい」という『気持ちのりレー』の取り組み。全て無料提供。開催日は、としよかん横で野菜の販売も行われており、住民が気軽に集える機会になっています。



3 オトナカイギ (第4金曜日 18:00~21:00)

晩ご飯をもちより、生活のあれこれをおしゃべりする場。生活の中の『あったらいいな』を語り、それが生まれる場になっています。

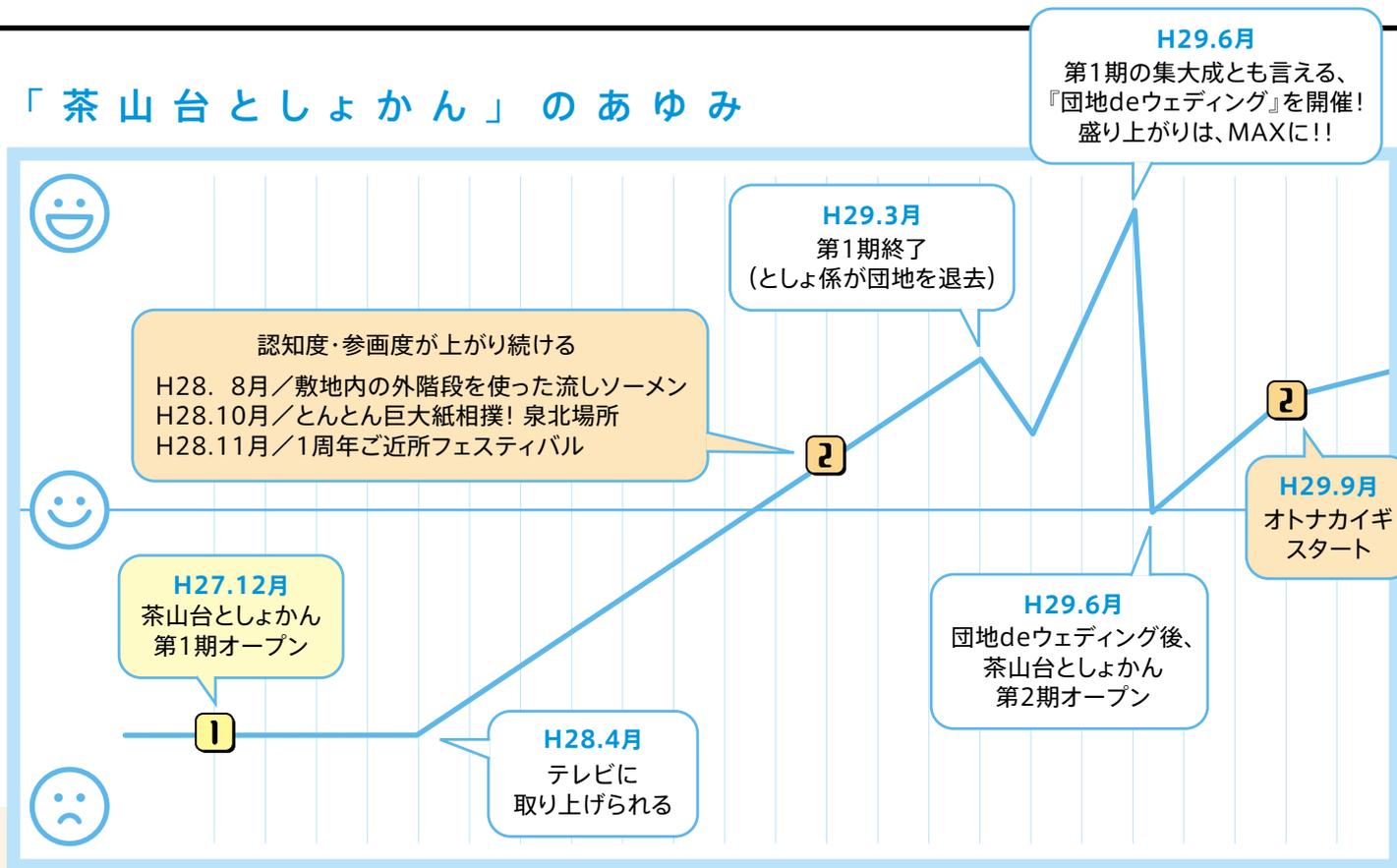


4 茶山台だいがく (不定期)

住民が先生になって、相互に学びをシェアする取り組み。これまでに、味噌作りや草木染めなどをテーマに開催しています。



「茶山台としょかん」のあゆみ



「コロナのきっかけ」

1 住民が集える場 茶山台としょかんがオープン!

大阪府住宅供給公社創立50周年を機に、今後公社として顧客にどのような価値を提供するのかを考える、職員ワークショップを実施。その中でのアイデアの一つ、受託者が団地住人となり集会所を活用してコミュニティ支援を行う『茶山台としょかん(第1期)』が委託にて開始。現在は、委託先をNPO法人SEINに代え、第2期がスタートしています。



「コロナの変化」

2 住民による住民のための取り組み

〔第1期〕▶テレビに取り上げられたことを契機に、知名度が徐々に上昇。住民とのつながりの中から、一緒に企画・実施した『ご近所フェスティバル』など、住民が主体的に取り組む基礎ができあがりました。

〔第2期〕▶地元住民による『としょ係(運営スタッフ)』が6名になり、H29年9月には「オトナカイギ」がスタート。新たな参画者(住民)も増え、自分たちの生活課題の解決を話し合う場になっています。委託に頼らない住民主体の取り組みが進んでいます。



「コロナ相手の声」

3 これからが本当に楽しみです!

〔住民〕▶「昔のように人が集う活気のある団地になれば、子どもたちにとっての安心・安全な地域になる。そんなしかけを行っていきたいです」

〔住宅供給公社〕▶「住民が“いきまないで”困りごとを解決していくような取り組みが、おしゃべりの延長上から生まれるようになってきています」

参考 □開催場所：南区茶山台2丁1-19棟 集会所 □運営：NPO法人 SEIN
□設置主体：大阪府住宅供給公社

事例 6

「この地域に住んでいてよかった」 子どもから大人までみんなが集える場



りんりんカフェ

地域住民 × 住宅管理会社 × 協同組合

基礎データ

活動頻度	月に4回 (3回/土曜日、1回/木曜日)
参加者 〔参加平均人数〕	大人、小学生、未就学児 〔20人〕
担い手属性 〔担い手人数〕	地域住民、民生委員、 生協ボランティア〔9人〕
立ち上げ費用	20,000円



活動紹介 \ ここがおもしろポイント /

1 子どもと高齢者の集いの場

もともとの寺子屋*を基盤に高齢者も集える場としてカフェを始め、今では高齢者と子どもたちのふれあいの場となりました。カフェールとしてお互いに名前と呼ぶようにしています。



※休日に子どもたちが集まり、自主学習や世代間交流を行う活動

2 大人に嬉しい! 手作りの野菜販売

住民が愛情込めて育てた野菜を格安で販売しています。寺子屋*の時から販売は継続しており、やはり大人に大人気で、カフェが終わる頃には完売しています。

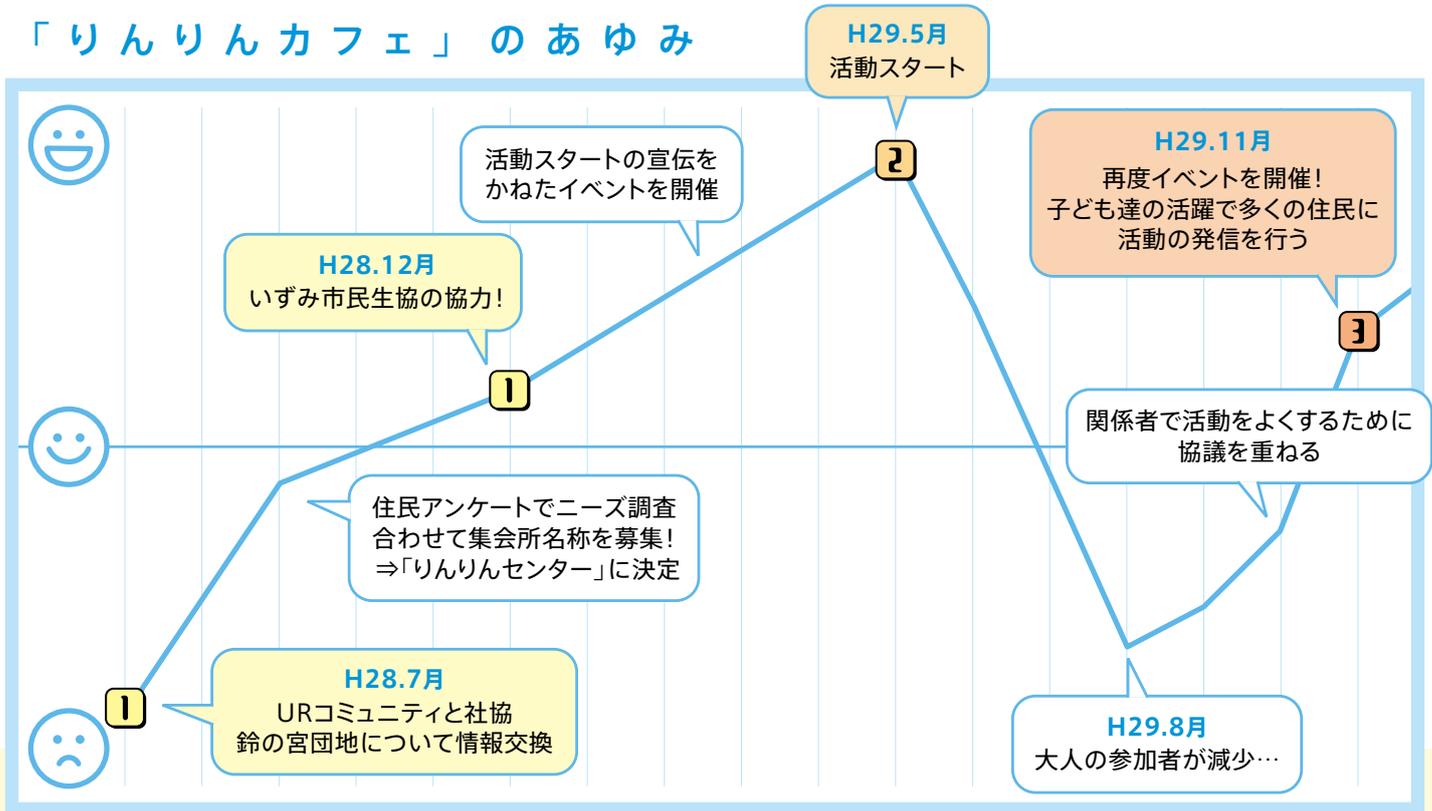


3 高齢者・子どもがお互いに教え学びあえる関係

高齢者が子どもに将棋の遊び方を教え、一方、高齢者が子どもから携帯やスマホの使い方を学びます。お互いに教え合い、助け合うことで、子どもたちにとっては皆で仲良く遊ぶルールを学ぶ機会になり、高齢者は子どもたちに元気もらっています。



「りんりんカフェ」のあゆみ



1 コラボのきっかけ

1 始まりは地域の現状の情報交換から

住宅管理会社であるURコミュニティと社協でUR鈴の宮団地について情報交換しました。そこで、自治会組織がなく、高齢化率が高く、集会所の利用率が低いという背景から、『集会所を拠点に住民の集いの場づくり』に取り組むことに決定しました。まずは住民ニーズを知るためにアンケート調査を行った結果、年齢関係なく集いの場を求める意見が多数を占めました。その後、子どもから大人まで誰でも来れる集いの場の実施に向け、活動のノウハウがありボランティア調整の協力が可能ないずみ市民生協の協力を得ることになりました。



▲UR鈴の宮団地 集会所

2 コラボしての変化

2 様々な主体が強みを活かして!

H29年度から活動を開始するために、住民、民生委員、URコミュニティ、生協、地域包括、保健センターで協議会を立ち上げ、イベント企画を行い、カフェ活動もスタートできました。住民や民生委員の協力は大きく、地域活動を支えるためにURコミュニティ、いずみ市民生協など多様な主体がそれぞれの強みを活かして協力することで、今までになかった地域コミュニティの形成を目指しています。少しずつ新たな住民同士の交流が生まれつつあります。

3 コラボ相手の声

3 安心・安定したコミュニティをめざして!

【URコミュニティ】▶「自治会がない当団地においてのこの取り組みはまだ始まったばかりですが、持続可能で安定したコミュニティが形成されるよう、協議会メンバーと協力して支援していきたいと思っています」
【大阪いずみ市民生協】▶「いずみ市民生協では「人を支える」「安心してらせる地域づくり」「持続可能な社会」をめざして、りんりんの取り組みとリンクさせて地域コミュニティづくりの一助になればと考えています」

- 参考
- 活動場所：UR鈴の宮団地りんりんセンター（集会所）
 - 活動主体：りんりんカフェボランティア（住民、民生委員、生協ボランティア）
 - 活動協力：URコミュニティ、大阪いずみ市民生活協同組合、鈴の宮住宅老人会

事例 7

夢を咲かそう！ 大人も子どもも



マリリンの家 (多世代交流の場) × **子どもの居場所** × **SS倶楽部** × **民間企業など**

基礎データ

活動頻度	第1・3水曜日 14:00~17:00
参加者 〔参加平均人数〕	小学校低学年 (1年~3年) 〔約10人〕
担い手属性 〔担い手人数〕	マリリンの家スタッフ、 SS倶楽部 〔3人〕
立ち上げ費用	0円



『マリリンの家』代表・森さん▶

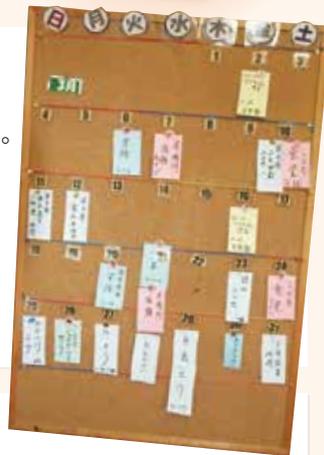


活動紹介 \ ここがおもしろポイント /

マリリンの家はつながりの発信基地

少しでも多くの人々が集まれるように工夫し、毎日のように集いの場が開催されています。

- 第1・3(火) 10:00~12:00…『写経』
- 第1・3(水) 14:00~17:00…『子どもの居場所』
- 不定期 10:00~12:00…『手芸』
- 第1・3(金) 10:00~12:00…『ママちゃんカフェ』
- 第1(金) 19:00~21:00…『元気塾』
- 第2・4(土) 11:30~14:00…『子ども食堂』
- 第2・4(土) 14:00~16:00…『現役大学教授による小学校高学年と中学生の進路指導』
- その他…東北震災支援、にしなりジャガピーパーク物作り、七五三写真会など



みんなで仲良く、 宿題や遊びを楽しめる！

小学校低学年が中心に集まり、スタッフの方々に教えてもらいながら宿題をしたり、折り紙などの工作や将棋なども行っています。核家族が多いので子どもたちもスタッフの事を自分のおじいちゃん・おばあちゃんのように思いながら接しています。

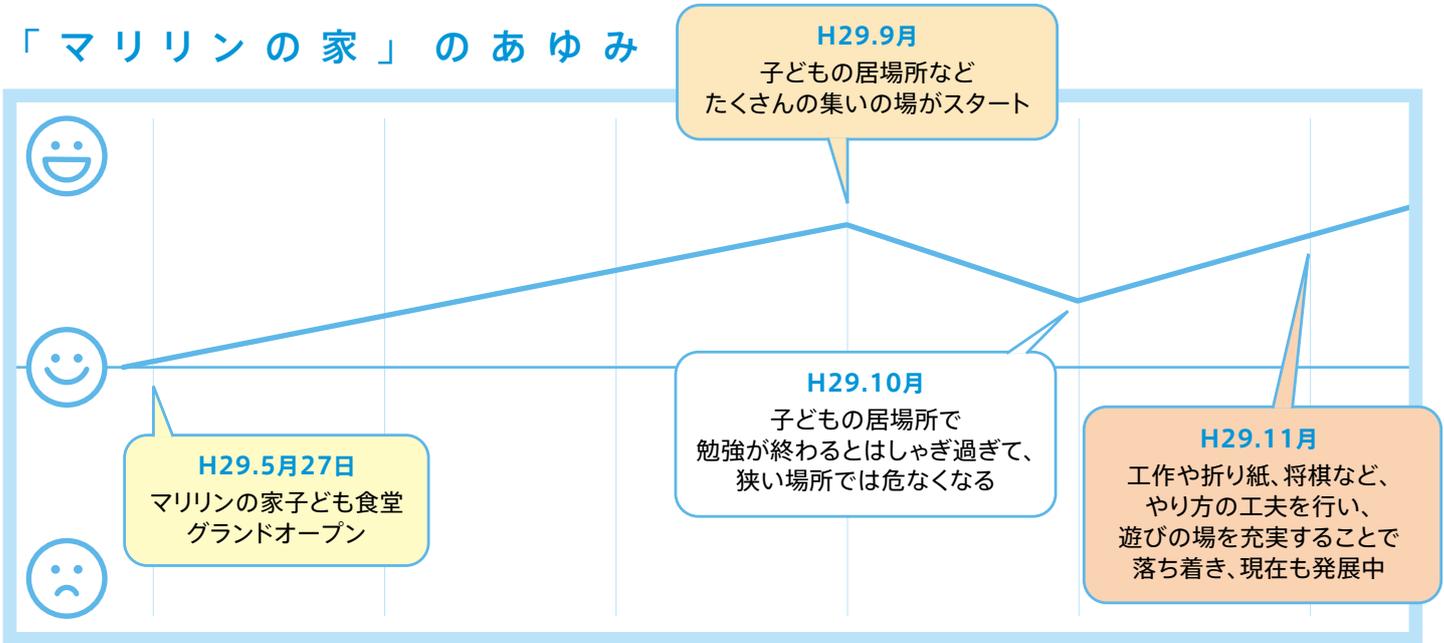


自然に生まれる 多世代交流と子どもの役割

年は大きく離れていても会話が生まれ、人が集まると自然にアイデアが生まれます。子どもだけでも年上・年下の関係で知らない人とどうコミュニケーションをとれば良いか考え努力することで子どもの成長につながります。また、子どもに役職をつけ名札を渡すように工夫してみると、今までにないしっかりとした感情が芽生え、責任感なども学ぶことが出来ているようです。定期的に『子ども役員研修』を企画しています。



「マリリンの家」のあゆみ



「マリリンの家」は、いろいろな集いの場が盛りだくさん！

子ども食堂 2・4土曜日
11:30 ~ 14:00

子どもの居場所 第1・3水曜日
14:00 ~ 17:00

七五三写真会

ママちゃんカフェ

第1・3金曜日
10:00 ~ 12:00

写経

第1・3火曜日
10:00 ~ 12:00

手芸

不定期
10:00 ~ 12:00

無印良品 × マリリンの家
～つながる絵本プロジェクト～

無印良品が『もう読まなくなった絵本を次のこどもに』をキーワードに、3冊の絵本を寄贈すると2冊持ち帰れるプロジェクトで集まった絵本を、子ども食堂に集まる地域の子どもたちに向けて寄付する取り組みで、マリリンの家に50冊の絵本が寄付されました。

参考 | 活動場所：マリリンの家 活動協力：SS倶楽部（市民大学受講生が中心となって、市民大学修了後も「仲間づくり」と「地域貢献」をめざして自主的に活動している組織）
活動主体：マリリンの家

事例
8

みんなでつくる
地域の大切なふれあいの場



南余部ふれあい喫茶

福祉委員会(福祉推進委員×民生委員児童委員)

× 自治会

基礎データ

活動頻度	月1回 (第2土曜日 13:30~15:30)
参加者 〔参加平均人数〕	地域住民 〔約30人〕
担い手属性 〔担い手人数〕	福祉推進委員〔11人〕 民生委員児童委員〔5人〕
立ち上げ費用	約50,000円 (財源：自治会から支出)



活動紹介 \ ここがおもしろポイント /

3団体の協力によってつくられた、地域の交流の場
～横のつながりを築く大切な場～

喫茶が落ち着いた時は、スタッフも一緒にみんなで楽しく井戸端会議。スタッフ同士の情報交換の場にもなっています。また、3団体の横のつながりを活かして参加者の日頃の困りごとなどの相談に応じています。



みんな嬉しい！
ふれあい喫茶スタンプカード

「参加者の方々に、続けて来てもらえるように何かお得になることがあれば…」と活動当初から実施。スタンプをためる楽しみがあり、続けて参加してもらえる工夫のひとつとなっています。

■ふれあい喫茶参加費：100円(コーヒー・お茶等) おかわり自由



10個スタンプがたまると
1回の参加費が無料に!



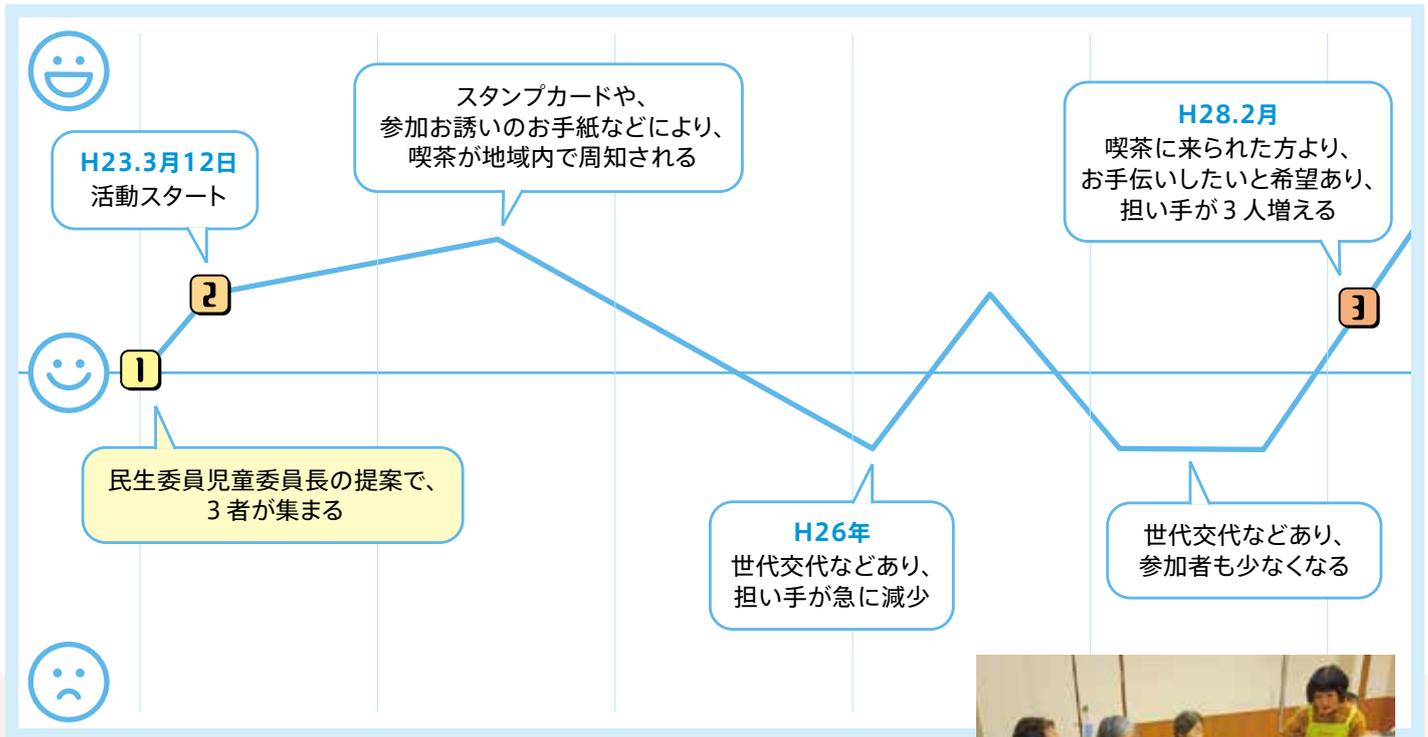
参加者も一緒につくるふれあい喫茶
～会話がはずむきっかけづくり～

参加者の中に折り紙が得意な方がおられ、興味のある方々に折り方を教えたり、折ったものを周りの方々にプレゼントしたりと、はじめての方でも入りやすい和やかな雰囲気が生まれており、みんなが楽しめる場を参加者も一緒に自然とつくっておられます。



▲ふくろうの
かわいい折り紙作品

「南余部ふれあい喫茶」のあゆみ



ま
ち
の
身
近
な
集
え
る
場
事
例
集

1 コラボのきっかけ

1 団体間の連携によって実現！

「地域に、高齢者の方が集える場があればいいなあ」との思いで、民生委員児童委員長が提案して、【自治会】+【福祉推進委員】+【民生委員児童委員】が集まり、3者協同によって『ふれあい喫茶』を立ち上げることになりました。

3者で話し合った結果、地域住民のために安定した活動を継続して行えるように【自治会】から補助金を拠出してもらえることになり、今も引き続き協力してもらっています。

【福祉推進委員】は、当時お手伝いとして協力していましたが、民生委員児童委員長よりバトンを引き継ぎ、現在は主体となって活動しています。



事例 1

事例 2

事例 3

事例 4

事例 5

事例 6

事例 7

事例 8

2 コラボしての変化

2 それぞれの強みを活かして

自治会長も毎回参加されているので、活動の状況も把握して下さっており、日頃から相談や情報共有がしやすいため、安心して活動できます。

これからも3者で協力しながらこの喫茶を続けていき、子どもたちにとっても参加しやすい場にしていければと考えています。



コラボ
スベシヤル

3 コラボ相手の声

3 子どもから高齢者までみんなが集える場へ

【自治会長より】▶「この喫茶が立ち上がった時は、前任の自治会長の時でしたが、今もなお地域にとって大切なふれあいの場だと自治会としても思っており、活動資金面でのサポートを継続しています。

今後も益々地域にとって大切な場になり、そして、若い世代の方々など幅広く参加してもらえるような場になればと思っています」



参考 □活動場所：堺市美原区南余部 160-10 南余部総合会館
□活動主体：黒山校区福祉委員会 南余部地区

子ども食堂



堺市では様々な家庭環境で暮らす
地域の子どもたちを対象に
食事と居場所を提供し、見守り、
必要に応じて支援機関につなぐ取り組みを
『子ども食堂』と呼んでいます。



\ Pick up! /

キッチン錦綾 (錦綾校区福祉委員会 / 堺区)

\ こんにちは〜! /



\ しっかり遊んだあとは…
いただきます〜す! /



どうぞ
おまちかね〜



おなか
すいた〜



ちなみにこの日のメニューは…

- ごはん ○スープ ○フライ
- サラダ ○スパゲティ

ご協力いただい
ています!

タマノイ酢(株)さん



男性ボランティアも
受付や子どもたちの
送迎に大活躍!



さかい子ども食堂
ネットワーク



◀のぼり



さかい子ども食堂
ネットワーク

子ども食堂を実施する団体間の
交流や情報共有・人材や食材のマッチングなどの
支援を通じて、
市内の子ども食堂の輪を広げていくことを目的として
設立しました。

堺市内では30カ所以上の子ども食堂が
「さかい子ども食堂ネットワーク」に入会しています！
<http://www.sakai-syakyo.net/KSN/>



地元の病院のお医者さん
耳原総合病院 × 子ども食堂

病気やケガのとき以外には
会う機会の少ないお医者さんと
お話しする場をセッティング。
子どもたちから素朴な質問が！



身長はいつまで
伸びるの？

食べてすぐ走ると
どうしておなか
痛くなるの？

コラボしてるよっ！



地元の老舗企業
(株)つぼ市製茶本舗



× 子ども食堂



お茶の町「堺」に
育つ子どもたち
にお茶を通じて
人と繋がる体験を！

コラボの輪、
広がってます！



さあ、やってみよう!

この事例集を読んで、「やってみたい」「私にもできるかも…」という思いを感じたあなた!

堺市社会福祉協議会では、その気持ちを応援しています。

ひとりではなかなか難しいと思うことでも、協力者や他の団体と話し合い、

一緒に取り組むことで可能性が広がっていくかもしれません。

「地域のために何かしたい!」という思いを大切に、

一歩踏み出してみませんか?



◎集いの場に関する情報収集・相談先 堺市社協各区事務所



〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1 堺市役所本館内
TEL.072-226-2987 FAX.072-226-1952



〒599-8236 堺市中区深井沢町2470-7 中区役所内
TEL.072-270-4066 FAX.072-270-4088



〒599-8112 堺市東区日置荘原寺町195-1 東区役所内
TEL.072-287-0004 FAX.072-287-0444



〒593-8324 堺市西区鳳東町6-600 西区役所内
TEL.072-275-0255 FAX.072-275-0266



〒590-0141 堺市南区桃山台1-1-1 南区役所内
TEL.072-295-8250 FAX.072-295-8260



〒591-8021 堺市北区新岡町5-1-4 北区役所内
TEL.072-258-4700 FAX.072-258-4770



〒587-8585 堺市美原区黒山167-1 美原区役所内
TEL.072-369-2040 FAX.072-369-2060

子ども食堂に関するお問い合わせはこちらまで!



〒590-0078 堺市堺区南瓦町2-1 堺市総合福祉会館内
TEL.072-232-5420 FAX.072-221-7409

掲載されている集いの場への
見学・参加についての
ご相談も可能です。
お気軽にお越しください。



〈 集いの場づくり / 企画シート 〉

1

まずは、「きっかけ / 最近気になっていること」、そのことに対する「私(たち)ができそうなこと」を整理してみましょう

きっかけ / 最近気になっていること

例) 退職して時間がある、子ども食堂、子どもの居場所がない

私(たち)ができそうなこと

例) 子どもと遊ぶのが得意、小学生になら勉強を教えらる

2

できそうなことに賛同し、「協力してくれそうな人」、「活動を行う場所」を考えてみましょう

だれと

例) ご近所の〇〇さん(調理師)、自治会の△△さん、友人の〇〇さん

どこで

例) 自治会館(空いている第1火曜日夜間)

3

実施に向けて、具体的な企画書づくりをしていきましょう

名称

例) 子ども食堂「たんぼぼ」

なんのために

例) 子どもの居場所づくり、孤食を減らす

なにを

例) 晩ご飯の提供、勉強を教える、遊びの場

いつ

例) 第1火曜日の18時～

だれに

例) 校区内の小・中学生(20人程度)

どうやって(お金/モノ)

例) ご近所の〇〇さんを中心に簡単な調理をしてもらい、近隣の商店に食材の協力を呼びかけてみる、参加者から参加費をもらう(100～300円程度)

呼びかけ方

例) チラシを作成する、自治会を通じて小・中学校に広報をお願いする、自治会で回覧してもらう

その他・備考

!

★このほかにも、活動を考えるときには、「実施に向けたスケジュール」や「話し合っておくこと(誰と/何を)」などを明らかにしておくスムーズです。

★活動がもたらす効果を考えることも大切ですが、なによりあなた自身が「楽しんで」「わくわく」しながら企画することがポイントです。

まちの身近な集える場

事例集 Vol.2

出会いが新たな魅力を生み出す
コラボのすすめ

問い合わせ

社会福祉法人 堺市社会福祉協議会 地域福祉課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町2-1

TEL.072-232-5420 FAX.072-221-7409

